

# 市長から 市民のみなさんへ 38



山陽小野田市長 白井 博文

## “感動体験”を通じて 「文化の香り漂うまちづくり」を

11月3日から12日まで県内各地で様々な文化事業が開催された「国民文化祭・やまぐち2006」～本市でも表紙からの特集にありますように5つの事業が行われ、のべ人数で約1万7000人もの方々に出演、入場していただきました。ご参加、ご協力していただいたすべての方にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

後日、少年少女合唱祭をご覧になったご年配のご夫婦から「あまりの素晴らしさに、その夜はなかなか寝つかれなかった」という感想をおうかがいしました。この方のように、今まで接することのなかったレベルの高い文化に出会い“感動体験”をされた市民のみなさんも数多くいらっしゃったのではないのでしょうか。

折しも市内の小学校では県交響楽団の訪問演奏、今年2月に締結した連携協定がきっかけで実現した山口東京理科大学の先生による科学体験教室の開催など、これからの山陽小野田市を背負っていく児童に“本物”に触れ、“感動体験”してもらい取り組みもはじまったところです。

「山陽小野田市を文化の香り漂うまちに」というテーマをまちづくりの目標として掲げていますが、特に文化や教育は継続した取り組みが必要なため、一朝一夕にすすんでいくものでもありません。そういった意味では今回の国民文化祭や児童の“感動体験”プロジェクトなどの「きっかけ」を通じ、その土台づくりがようやくスタートしたかなと思っています。



▲山口県交響楽団 厚狭小訪問(11月16日)  
児童代表が指揮者を体験しました。

## ボランティアのみなさんが支えた国民文化祭

ところで国民文化祭の開催にあたっては、多くの方が関わり、その成功を支えていただいたわけですが、中でも様々な形でボランティア参加された約800人の方々の存在は本当に大きいものでした。お隣の武道場からかるた競技の会場である体育館に300枚もの畳の搬入を行った団体のみなさん、連日、現代ガラス展で見学者のおもてなしをしていただいた方々など、どの会場でも縁の下の力持ちとなってがんばっていただいたことに感謝申し上げます。前号でもお話ししましたが、ともすれば“受け身”のイメージがあったボランティア活動が最近、変わりつつあるようです。何かの役に立ちたいと自ら積極的に申し出ていただく方々がどんどん増えてきていることを頼もしく思うとともに、その輪がどんどん広がっていくことを期待しています。

## 地域に根付いた文化を

国民文化祭の期間中、現代ガラス展の会場に二井知事が見学に来られました。知事は山陽小野田市のガラス展に大変興味を示され、山口県を代表するコンペティション(競技会)の一つではないかと高い評価をしてくださったそうです。ガラス工芸が市内外の注目を浴びていることを再認識するとともに、文化の軸の一つとして更に発展させていかなければと考えているところです。

もう一つは、今回、県かるた協会のご尽力で実現した小倉百人一首の全国大会を契機に「かるたのまち山陽小野田」の名声を再び全国に広め、まちづくりに活用できないかという思いが私にはあります。幸い、昭和40年代に全国大会で活躍され、クイーン位の座を獲得された今村美智子さんが、かるたを普及させたいという強い熱意をお持ちです。地域に一つの文化が根ざすのは簡単なことではありませんが、課せられた宿題の一つとして前向きに取り組んでいこうと決意しているところです。

## 対話の日

※いずれの会場も19:00から



12月14日(木) 鴨庄東自治会館  
12月27日(水) 横土手自治会館  
1月11日(木) 中塚公会堂